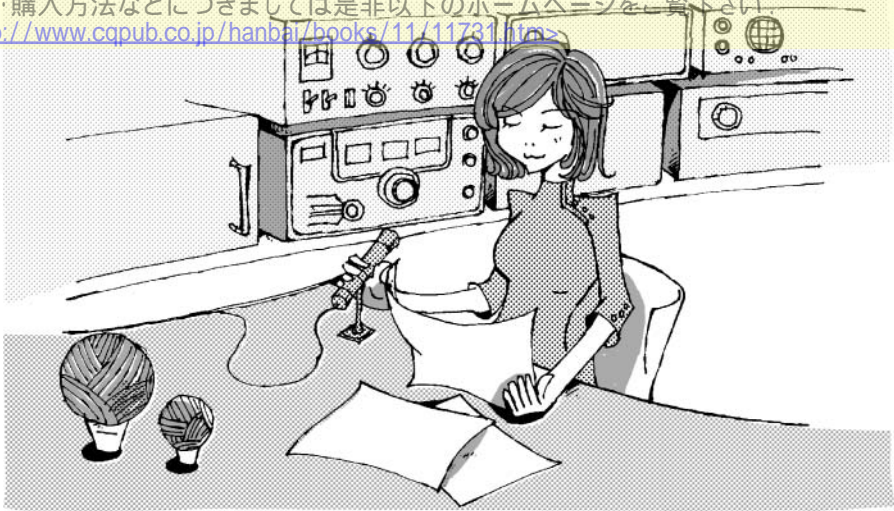


このPDFは、CQ出版社発売の「改訂新版 ハムのための英会話」の一部分の見本です。内容・購入方法などにつきましては是非以下のホームページをご覧下さい。
<<http://www.cqpub.co.jp/hanbai/books/11/11731.htm>>



1.2 英語による簡単な QSO のしかた

● ビギナーへの英会話のコツ

さて、次のような想定でお話を始めましょう。

ぼつぼつ国内の QSO に慣れてきたあなたが、21MHz 帯で入感する海外局の存在に興味を持ち始め、「ひとつオーバサイズとの QSO をやってみようか」と考えているとしましょう。

あっ！ ちょっと待ってください。最初から“CQ DX CQ DX ……”を出してはいけません。無理な注文をするようですが、DX を志したら、一週間くらいは送信を一切止めてワッチ専門局になってください。

それでは、一緒に 21MHz 帯をのぞいてみましょう。

21,260kHz あたりにちょうど受信機のダイヤルが合わせてあったので、ゆっくりここから上の方へバンドをワッチしてみることにします。

21,265kHz に強力なローカル局が聞こえますので、もっと上のほうへダイヤルを回しましょう。270, 275, 280kHz と回します。283kHz に英語をしゃべっている局がありますので、ここで一応ダイヤルを止めましょう。

…… OK Gordon. Thanks for the nice report. You are putting in a very

nice signal yourself. You are five and seven to eight, 5 and 7 to 8 here in Auckland. The weather is clear and cool today. And, it's rather windy. Oh, I'm sorry. I forgot to give you my name. My name is Tony, Tango-Oscar-November-Yankee, Tony. Well Gordon, back to you. G3 △○△ this is ZL1 ○△○ over.

誰かと思ったら、ニュージーランドの ZL1 ○△○がイギリスの G3 △○△と QSO をはじめたところのようです。受信内容から見て、G 局のハンドルはゴードンのようです。おそらく、G 局は ZL 局によいレポートをよこしたのでしょう。

「あなたもこちらによい信号を飛ばしていますよ。こちらで(了解度)5 (信号強度) 7 から 8 で当地、オークランドに入感しています。こちらの天候は晴、そして涼しいです。やや風が強いようです。あっ、ごめんなさい、こちらの名前をいうのを忘れました。私の名前はトウニーです。ジャゴードンさん、お返ししましょう。G3 △○△、こちらは ZL1 ○△○です。ドウゾ」というようなことをいっていました。

中学程度の英語で、むずかしい単語は何ひとつありませんから、特に解説する必要はないと思います。しかし、言いまわしやその他ではビギナーの方にはわかりにくいところがあるかもしれませんので、少し解説をしてみましょう。

まず、…… OK Gordon という出だしですが、途中から聞くのでその前に何があったかわかりませんが、ここで取り上げたいのは、こういういい方のことです。

日本人同士ではめったに、「ハイ米田サン」、「ワカリマシタ米田サン」というようなことはいいませんが、彼等は親しみを表すために、あるいは敬意を表す際に、こういうふうに関手の名前をイチイチいうのです。姓でなく、名を使うのは親しみの現れです。

ですから、相手が名前をいったらこちらからも名前を名乗り、そこから後は例のように送信開始の都度、そしてスタンバイするごとに相手の名前をいうのが通例となっています。

もちろん、途中でいってもかまいません。たとえば、名前をいい忘れてごめんなさい、というくだりで “Oh, I'm sorry” といっていますが、ここで次のようにいってもよいのです。 “Oh, I'm sorry Gordon, my name is Tony.” といういい方もあるわけです。単に「ゴードン君すみません、私の名前はトウニーです」といって

いますが、前後の関係と、Oh という「あっ、うっかりしていました」というような意味の言葉があるために、特にいい忘れた、という“I forgot to give you my name”のところは、上のように“Oh I'm sorry Gordon, my name is Tony.”といった場合は省略してよいわけです。

つぎに、“You are putting in a very nice signal ……”のところですが、“You are five and seven to eight, a very nice signal ……”といってもよいわけです。いずれにしても、「あなたは、とてもよいシグナルをこちらへ送り込んでいます。57 から 58 で当地、オークランドに届いています」という意味を表すわけですが、「あなたは、」という点に留意してください。別項にも述べてありますが、「貴局のシグナルは……」ではありません。

日本では人よりも局を中心にしがちですが、局よりも人を中心に考えてください。「貴局のアンテナ」、「当局の送信機」ではなく、「あなたのアンテナ(あなたが使用しているアンテナ)」、「当方(私)の送信機」のように、物体設備(局)よりも人(人間、オペレーター、局の持主)を中心に考えることを忘れないようにしてください。

さて、本題にもどりましょう。この例文では、readability とか signal strength, つまり了解度、信号強度という言葉を使っていません。通常、使ってもよいし、使わなくとも差し支えないと思います。使わないとハム的でないと考える方もおられるかもしれませんが、例を次にお見せしましょう。

You are readability five and signal strength seven to eight. My QTH is Auckland.

というふうに、ややかたい感じのいい方になってしまいます。

ここで QTH という Q 符号がでてきましたが、声を使った交信の際はできるだけ使わないほうがよいと思います。それにしても、Q 符号だの“calling you and standing-by”的なゴム印で押したようなことを言わないと気が済まない方がおられるのは、どうしてでしょうか？

本例のように、QTH という Q 符号を使わなくても、

You are 5 and 9 here in Tokyo.

といういい方に、ぜひ慣れていただきたいと思います。

それから、一回の送信を終わってスタンバイする際の言葉ですが、例のように、

Well Gordon, back to you. G3 △○△, this is ZL1 ○△○ over.

というのがごく自然です。「ではゴードン君、ここでそちらにお返しします。G3 △○△, こちらは ZL1 ○△○, どうぞ」という内容になるわけですが、多少これと違ったいい方は、

Now back to you Gordon G3 △○△ from ZL1 ○△○ over.

さらに変えて、

G3 △○△ from ZL1 ○△○, take it away Gordon.

という、やや崩れたいい方もあることを参考までに紹介しておきます。また、これはかたいい方の例ですが、

G3 △○△, this is ZL1 ○△○. Go ahead please.

というのもあります。

なお、ここでお断りしておきますが、ネットのロール・コールあるいはモービルなどで、1回の送信を短くすることが要求される場合には Q 符号、たとえば QRU(用件なし)とか QTH(所在地)などを使うと同時に、いちいちコールサインをいい、「何々さん、どうぞ」というようなことをいわないようにするのが当然なことなのです。

話が前後して申しわけありませんが、先の例のスタンバイの際の “Well Gordon, back to you ……” のところですが、日本語でいう「おわかりになりましたか？」的なことをいいたくて、たとえば “Do you understand, Gordon?” という方もおられます。しかし、何か複雑なことをいって、「それが理解できましたか？」という問いの場合でなければこう聞くのはおかしいと思います。

理解というよりも、了解できたという場合なら、

Did you read me OK, Gordon ?

といってもよいし、少ししゃれた形なら、

Are you still with me, Gordon ?